

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成21年度技術情報第2号(イチゴの炭疽病) について (送付)

イチゴの炭疽病について情報をとりまとめましたので送付します。

親株床で炭疽病菌の潜在感染株が確認されています。子苗への感染を防止するため防除対策を徹底してください。

1 農作物名 イチゴ (育苗期)

2 病害虫名 炭疽病

3 予報内容

(1) 発生地域 県本土

(2) 発生量 多

4 情報の根拠

(1) 4月15日～21日に行った親株床での潜在感染株調査では、前年よりも 潜在感染ほ場が多く、感染株率の高いほ場もみられた(下表)。

(2) 平成18年頃から、6～8月に発生ほ場率が急増する傾向にある。

(3) 炭疽病菌は高温多湿条件で多量の胞子を形成し、雨水等で飛散するため親株から子苗への伝染が懸念される。

(4) 向こう1か月の天候では、後半は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予報されている。

表 親株床での炭疽病菌感染状況

調査場所	調査ほ場数	平成21年4月調査		平成20年4月調査		調査地点
		潜在感染ほ場数	潜在感染株率(%)	潜在感染ほ場数	潜在感染株率(%)	
日置	5	3	5	0※ ¹⁾	0	日置市伊集院町中川
川薩	5	3	6	2	3	さつま町湯田・白男川
曾於	9	6	11	4※ ²⁾	34	志布志市有明町
合計	19	12(63%)	8	6(43%)	11	

注) () はほ場率(1ほ場20株調査)、潜在感染株率は平均値。

※1): 地域振興局の調査では感染を確認している。※2): 平成20年は4ほ場を調査

5 防除上注意すべき事項

(1) 雨よけ、排水対策および防風対策を徹底する。

(2) 10～14日間隔で予防散布を行う。発生が認められた場合は散布間隔を短縮する。薬剤は、株元を中心に十分量(300g/10a)を散布する。

(3) 育苗ほ場周辺や育苗ベンチ下の除草を徹底する。

(4) 生育不良の親株や発病した苗(別添参考資料参照)は、早急に除去する。なお、除去した親株はビニール袋等に入れて密閉し適切に処分する。

(5) 地床育苗では、ビニールマルチ等で降雨等による土のはね返りを防止する。

(6) 古葉は潜在感染している場合が多いので、新葉展開後は摘葉する。

(7) 摘葉作業は、降雨時には行わない。

(参考資料)

○育苗ほ場での炭疽病発病株

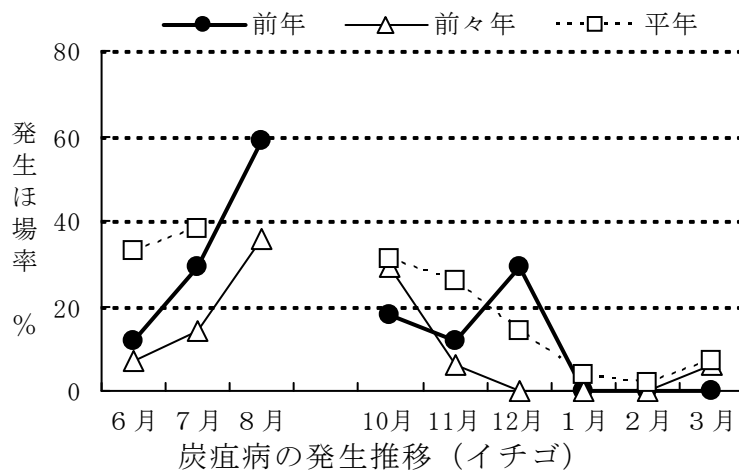


炭疽病による萎凋株
(クラウン部が侵され萎凋：採苗しない)



炭疽病発病中程度の株
(胞子が飛散するので早急に除去する)

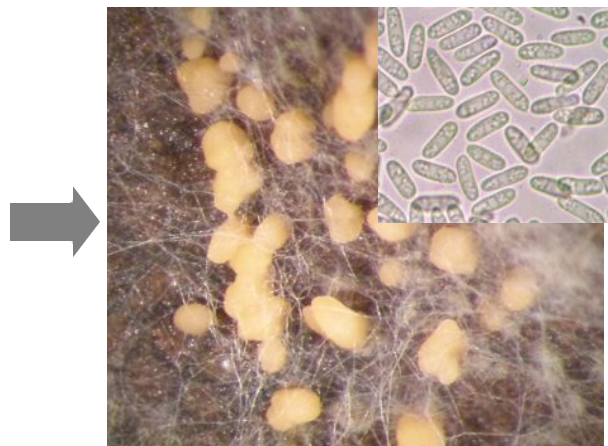
○イチゴ炭疽病発生ほ場率の推移



○簡易検定によるイチゴ炭疽病潜在感染株の検出



親株の小葉上に形成された胞子粘塊
(表面殺菌後、28℃で15日間保湿)



胞子粘塊の拡大部分と分生子 (右上)